ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式								
E142J007		絵画 (Painting)							対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態								
選択	1	3	教育学部	前期	月2	日本語			単独								
担当 教員	氏名 石田 翔太																
	E-mail ishida-syouta@oita-u.ac.jp 内線																
授業 の 概 要	本授業では、油彩画と日本画という異なる絵画技法を学びながら、それぞれの表現の特性を理解することを目的とします。各技法の文化的背景や歴史を学びながら、作品制作に取り組み、受講者の絵画文化への知見を深めます。油彩画ではキャンバスを支持体とし、下地作りやオイルの使い方、油彩画の基礎的技能を習得します。日本画では和紙を支持体とし、日本画絵具や膠を用いた東洋画の技法を学びます。それぞれの特性を理解し、表現の違いを自覚して、自らの創作を達成することを目指します。																
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7		
目標1	油彩画および日本画に関する道具、絵具の基礎的な使い方や技法について説明し、実演することができる。																
目標2	西洋絵画と日本絵画の特性や相違点、それぞれの表現と描画に関する基本的な考え方を理解し、表現することができる。																
目標3	観察に関する技能を習得し、対象から感じ取ったことをもとに自ら主題を生成し、表現に応用することができる。																
目標4	作品制作と鑑賞を通して、自分が感じたことや考えたことを的確に言葉で説明することができる。																
目標5	作品鑑賞を通して、受講者相互の多様な描画表現のあり方や思想について尊重し、意見交換など協力することができる。																
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
各DPへの関連度(計10)							3	1	3	1	2						
授業の内容																	
1	オリエンテーション、油彩画基礎 : 油彩画具について。【導入講義】日本における西洋画と日本絵画の歴史																
2	油彩画基礎 : 支持体について(木枠、キャンバスなど)、下地作り。【導入講義】メディウムについて																
3	油彩画基礎 : 描きはじめ(おつゆ描き、グリザイユなど)																
4	油彩画基礎 : 油彩画画材の扱い方、用具の後始末について。【導入講義】再現期の芸術の美学的位置づけ																
5	油彩画基礎 : 油彩画表現の特性																
6	油彩画基礎 : 各種オイルの効果。【導入講義】表現期の絵画の美学的位置づけ																
7	油彩画基礎 : 油彩画の仕上げ表現、ナラティブ理論を用いた互恵的鑑賞会																
8	日本画基礎 : 日本画系絵具について(墨、胡粉、岩絵具、水干絵具など)。【導入講義】日本絵画と日本画																
9	日本画基礎 : 支持体について(パネル、麻紙、絹本など)、礬砂引きと下地胡粉。【導入講義】日本の美の特徴																
10	日本画基礎 : 描きはじめ(淡墨の活用)、経営位置																
11	日本画基礎 : 絵の具の溶き方、膠の扱い方。【導入講義】日本画の歴史																
12	日本画基礎 : 日本画表現の特性、随類賦彩																
13	日本画基礎 : 天然画材による表現。【導入講義】東洋画画論の紹介																
14	日本画基礎 : 日本画の仕上げ表現、気韻生動																
15	日本画基礎 : 表具について、総合鑑賞会。【導入講義】哲学期の絵画の美学的位置づけ																
ラ ー ク ニ ン グ	A:知識の定着・確認	受講者は制作時に感じたこと、考えたことをメモにして貯め、制作のナラティブを形成する。実技課題ごとに行う作品鑑賞会は作品のプレゼンテーションと意見交流を行う。さらに、受講者の制作メモを活用し、受講者間で相互作用的に感性の育成を促進させる。										工 夫 の 他 の	制作メモを活用した「感性の交換」により、知識と技術だけでなく、美的感性の育成にも取り組む。				
	B:意見の表現・交換																
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
授 業 時 間 外 学 修 の 内 容 と 想 定 時 間	準備学修	各課題で作品のプランニングを行う。(7h) 様々な油彩画と日本画の作品について調べる。課題に関する描画材料について調べ、準備する。(7h)															
	事後学修	自身の作品制作に応じた技術や描画材料、異分野の知見について学習し、制作に反映させる。油彩画と日本画の表現に関する基本的な知識を得る。(7h)															
	想定時間合計	21															
教科書	教科書は指定しない。 授業中に配布するプリントなどを使用する。																
参考書	必要に応じてプリントの配布や参考資料を紹介する。また、以下を参考書として挙げる。 小田部胤久『西洋美術史』東京大学出版会、2009年、ISBN9784130120586 辻惟雄『増補新装 カラー版日本美術史』美術出版社、2003年、ISBN9784568400656																

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	実技課題作品	60%										
	作品制作に関するプレゼンテーション、意見発表	20%										
	問題意識、目的意識	20%										
	すべての制作課題の完成、提出を単位取得の条件とする。											
注意事項	<p>授業で使用する絵具などの描画材は受講者が準備する（詳細は第1回で説明する）。支持体など、授業で使用する一部の画材材料費を集める（目安として1,500円程度）。</p> <p>絵画制作に取り組むため、衣服に絵具などが付着することがある。受講者は各自その点に対策すること。</p>											
備考												
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の有無												
教員の 実務経験	中学校、高等学校教職員											
実務経験を いかした 教育内容	実際の教育現場で想定される問題や課題、教授法の事例を紹介して教職意識を高めると共に、その適切な対応法を身につける。											